

**<自転車の安全利用促進委員会レポート>**  
**通学時自転車事故の“加害者”割合が高い兵庫県**  
**県内の中学・高校の新一年生、約500名が自転車の安全について学ぶ**  
**「自転車の交通安全教室」を開催**

自転車のルール・マナー等の正しい利用方法や安全安心な自転車の選び方、メンテナンスの重要性を啓発する自転車の安全利用促進委員会と一般社団法人自転車協会は、2023年4月25日(火)に兵庫県立東播磨高等学校、4月26日(水)に稲美町立稲美中学校、稲美町立稲美北中学校の自転車通学を始めた、新一年生に向けて『自転車の交通安全教室』を実施し、3校合わせ生徒約500名が参加しました。

兵庫県の中高校生は、全国と比較しても自転車事故件数が増加傾向となっています。また、通学時自転車事故の加害者となる割合が、中学生全国ワースト3位・高校生全国ワースト4位となっており、約9割以上が事故時に法律違反をしていることも判明しました。(自転車の安全利用促進委員会調査) 自転車の運転により他人に損害を与えた場合、加害者に対して高額な賠償金の支払いが命じられるなど自転車の安全利用が重要な課題となっています。

講演では、中高生者の自転車事故の特徴や事故が起きる状況を説明し、「自転車も交通社会の一員として、自分の身だけでなく相手の身を守るため、ルールを守ることが大切です」と強調し、自転車運転中のイヤホン・携帯電話使用する事での危険性や、事故において加害者になってしまうケースは、高額な賠償金だけでなく刑事罰を受けると免許や資格が与えられない職業もあり将来的にも大きな損害になってしまうと伝えました。

さらに、「通学自転車は毎日乗るため、BAAマークなどの安全マークが付いた自転車を選び、自動車の車検と同じように定期的にメンテナンスをすることが重要です。」と解説しました。

本年4月より施行されたヘルメット着用努力義務化によるヘルメットの重要性をはじめルール・マナーだけでなく自転車も加害者になってしまうことの重大さについても理解し、一人一人が自転車の安全について考える機会となりました。

**【参加生徒の感想】**

- ・自転車通学で細い道や坂道を通っている時に車と隣り合わせになることも多く、改めて自転車に乗る時のルールを知ることができて良かった。
- ・自転車通学をしていると危険な場所も多いので、自転車は気軽な乗り物と思いがちですが、自分にも他人にも命に危険がある乗り物だと分かった。



兵庫県立東播磨高等学校の様子



稲美町立稲美北中学校の様子

## 《講師略歴》

遠藤 まさ子

自転車の安全利用促進委員会メンバー／自転車ジャーナリスト

自転車業界新聞の記者や自転車専門誌の編集などを経てフリーランスへ転向。自転車・育児用品を中心に取材を行い各誌に寄稿。自転車の中でも子ども乗せ自転車、幼児車、電動アシスト自転車を得意とし、各種メディアで自転車の利活用、安全指導等解説を行う。



## 《自転車の安全利用促進委員会》

自転車の安全利用促進委員会とは、一般社団法人自転車協会の協力を受け、安全安心な自転車利用のための啓発活動を行う団体です。自転車の利用者の方々には快適な自転車生活を送って頂くため、購入時に知っておくべき自転車の選び方から購入後のメンテナンス、正しいルール・マナーなどの情報発信を行っています。また、活動の一環として教職員や学生を対象とした、自転車通学指導セミナーも全国で開催しています。

<http://jitensha-anzen.com/>

## 《BAA マーク》

BAA マークは、一般社団法人自転車協会が定める自転車安全基準に適合した自転車に貼られています。自転車安全基準には全部で約 90 項目の検査項目があり、ブレーキ制動性能、フレーム・駆動部の強度、ライトの光度、リフレクターの反射性能などの検査に合格する必要があります。



## 《2021 年都道府県別高校生の通学時自転車事故の加害者(一当)割合ランキング／兵庫県》

※中学生ワースト 3 位/高校生ワースト 4 位

中学生の通学時自転車事故 加害者(一当)割合ランキング(2021年)

順位	都道府県	一当件数	一当割合	前年比増減率(割合)
1	栃木	38	55.88%	46.36%
2	和歌山	8	47.06%	88.24%
3	兵庫	31	43.66%	9.91%
4	新潟	3	37.50%	-6.25%
5	三重	9	37.50%	112.50%
6	京都	7	36.84%	35.09%
7	東京	26	36.62%	-5.84%
8	滋賀	15	35.71%	69.64%
9	神奈川	7	35.00%	13.75%
10	富山	4	33.33%	166.67%

高校生の通学時自転車事故 加害者(一当)割合ランキング(2021年)

順位	都道府県	一当件数	一当割合	前年比増減率(割合)
1	東京	198	46.48%	20.47%
2	栃木	64	45.07%	42.33%
3	愛媛	22	37.29%	46.05%
4	兵庫	141	35.43%	-11.95%
5	京都	23	32.39%	33.39%
6	三重	11	26.83%	14.63%
7	奈良	8	26.67%	-26.15%
8	愛知	172	26.63%	4.25%
9	神奈川	108	26.41%	-12.40%
10	和歌山	8	23.53%	-23.53%